



「けやき」通信 **「こも 木洩れ日」** (其の119)

2020年9月30日発行 社会福祉法人九十九会 生活介護事業所「けやき」

〒299-4403 千葉県長生郡睦沢町上市場 693

☎ 0475 (44) 2888

障害者との出会いの体験 (10)

理事長 荒木直躬

前回から半年が経過して、世界中が新型コロナウイルスの蔓延で不安定な状況になっている。そんな時のんきな昔話でもないだろうとお叱りを受けそうな気がする。私は様々な事情で原稿を書くことが出来なかった。今までお読み下さった方にはご迷惑をおかけしまして申しわけありません。

「自分は接枝性分裂病だ」と打ち明けた同級生のこと。卒業後都内のある精神科病院に勤めたこと。高度経済成長期で世の中の矛盾が多くなってきているので、精神病の人がふえているので患者が少なくなる心配はしなくて良いと、その病院の経営者陣と労働組合とが妙なことで意見が一致していること、患者さんの中には接枝性分裂病の人もいたこと。等を書いて前回は終わった。

そもそも福祉を専攻した私が、病院でどんな仕事をしていたのか。しかも治療現場で、何の資格もなく知識もなく。

私の職種は「補助看護人」と言うものだった。男性の看護婦を「看護人」と言い、無資格だから「補助」と言うわけである。具体的には、病棟内の清掃・患者さんの食事介護・おむつ交換・入浴介護・散髪・医療機器の洗浄消毒・電気ショック時患者さんを押さえつけること・麻薬の禁断症状の激しい人を拘束帯で鉄製ベッドに縛り付けること、夜勤時の病棟内の見回り、一度深夜に首を吊っている患者さんを私一人で床に下ろしたことがあった。その人はすでに亡くなっていた。ロボットミーという脳の手術時に膿盆（血のついたガーゼなどを入れる金属製の容器）を持って立っている役目。患者さんの散歩の付き添いなど、要するに資格がなくても出来る何でも屋であった。

「子ども係」と言う役目があった。16名の児童患者を一日中面倒見るのである。有資格の看護者の方々はやりたがらないので、病棟主任にお願いしてなるべく子ども係を多くしてもらった。私にとっては一番楽しいひとときであった。

障害者福祉施設に知的障害の方が入所しているように、精神科病院にも入院している。同じ状況の方だが処遇面は随分と違う。福祉施設では「利用者」であるし、病院では「患者」である。医療と福祉の違いをまざまざと見せつけられる思いがした日々だった。

私は一年だけ勤めて退職した。福祉の観点から接しなかったからである。この一年間が私の人生の中で一番私を変えた時期だった。多くの疑問を持たされ、未だに考え続けさせられている。起きた出来事を細々と記憶し、もっとあのときあの患者さんに、ああもすれば良かった、こうもすれば良かったと後悔し、反省と贖罪の人生を送っている。

一口に精神病患者と言っても、同じ病名でも、それぞれ別の人格をもち、別の人生をたどってきた人達である。話をわかりやすくするために、何人かの方を紹介したい。

Aさんは七十歳の男性で、20年以上入院している。カルテには「精神分裂病（当時の名称）」と書いてあり、別の医師の筆跡で「老人性痴呆症」（やはり当時の名称。以後病名や症状は当時のものであることをご了承願いたい）。

Aさんは保護室（5畳ほどの板の間で、監禁状態の個室。前号に少し詳しく示した）内で、だいたい一年中素裸で、壁に向かって正座し、時たま何かをいう。「それでいいよ」とか「それじゃだめだな」などの簡単なことを言ったり、少し笑うかと思うと、怖い顔で壁をにらみつけていることもあった。Aさんは寒暖とか、空腹・満腹とか清潔不潔には一切関心を示さず、自分の排泄物を壁に塗りつけたり、時には少し食べることもあった。散歩に出るときだけは浴衣を着せてもいやがらず、室内ではすぐに脱いでしまうのだが、散歩も時だけはパンツも帰るまではいてくれた。

散歩中は昔のことをぽつんぽつんと、言うことがあった。今月は儲かったとか、取引先がどうしたとか。カルテによれば、発病前は大きな株式会社の社長だったとのこと。もう10年以上も家族等の面会もなく、規定の入院経費などはきちんと振り込まれる、只それだけだった。カルテ中に看護者によって記録される日常の行動には、「いつもと変わらない、一日中空笑している、不潔行為が多い」などの決まり切ったことが書かれていた。

あるとき病棟の医長にAさんは治らないのか、精神分裂病なのか老人背痴呆症なのかどっちなのかと聞いたことがある。すると、「昔は分裂だったが年をとって痴呆症になった。もう治らないよ。君はカルテをよく読むのか？」といったので、一通り読みましたと答えるとメモをとったりしないだろうねというので、規則ですから読むだけですと答えた。

「あんなものは読んでも役に立たないよ」というので、その頃朝日新聞の『天声人語』欄で読んだ音をいって見た。

何とか言う公立大学の教授で病院長がこのほど退職した。そのとき医者として診断した患者の誤診率をしらべたところ25パーセントだったと発表した。この数字に一般人は多いことに驚き、医者達は少ないのに驚いた。そうなんですか？という、「診断なんかまず当てにならないよ。特に精神病に関しては50パーセントが誤診だといっても差し支えないね。特に精神分裂病に関しては90パーセントは誤診だと自分は思っているよ」と返ってきた。びっくりして「それじゃあ診断しない方が正しいじゃないですか、どうして診断名をつけるのですか」と遠慮なく聞くと「診断名を決めないと薬が出せない。保険も使えない。辛いところだよ」と半分独り言のような答えがあった。

私は驚くほど正直で、良心的なその医師を尊敬する気持ちを強く持つようになり、その後何かと話しかけたりした。病棟職員の忘年会で食ってかかり、暴言を吐くような事件を起こしたりしたが、そのことは後で述べることとする。

Aさんは、その後しばらくして病気にかかり亡くなった。病名が何であったか忘れてしまったが、素裸で保護室内で倒れており、夜勤看護者が1時間おきの巡回で発見したときは息をしていなかったとのことだった。葬儀社の車が病院の門を出て行くとき、何人かの職員でお見送りをし私もその中の一人であったが、<形ばかり>というのはこう言うことを言うのだなと思った。

「Aさんの人生って何だったんだろう」私は彼が出て行ってしまっ、空っぽになった保護室で、彼の汚物の臭いがかみこんだ床や壁をデッキブラシで洗いながら、いつまでも考えていた。今でもしばしば考える事がある。いつまでも答えはでないだろう。
(続く)

10月 1日(木): 摂食指導

14日(水): 健康診断(外房こどもクリニック)

11月 3日(火): 休業日(文化の日)

23日(月): 休業日(勤労感謝の日)

26日(木): 摂食指導

☆今年度予定しておりました、歯科検診(ビーバー号)、九十九祭は、新型コロナウイルスの感染予防の為、中止とさせていただきます。





① 8月の創作～魚つり～

今年はコロナの影響もあり、あまり季節を感じる事ができない日々が続いていましたが、けやきでは職員が型どりにした魚やいか、たこに色めりをした後、磁石をつけて魚つりゲームを行いました。さおにつけた磁石に魚がくっつく嬉しそうに見せて回る姿等、皆さん楽しそうに参加していました。 (藤平 久美子)



② イベント(焼きそば作り)

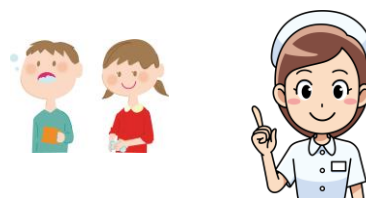
9月11日(金)に、みなさんと一緒に焼きそばとスープを作りました。朝からテーブルにホットプレートが置かれてソワソワする方が沢山いらっしゃいました。買い物班と調理班に別れて活動し、みなさん素敵な笑顔で、麺を入れたり、野菜を切ったりして、出来上がった量はとても多くみなさんお腹一杯食べて満足そうな表情をみせてくれました。コロナの影響で外食も控えており、我慢していることも多いですが、場所は変わらなくてもいつもと違う雰囲気の中での昼食は良い刺激になったのかなと思います。 (山田 友美)



やっと暑い夏が終わり、過ごしやすい日々となってきましたが、まだまだ新型コロナ肺炎が終息しないまま、感染症の季節が近づいてきました。そこで、今回はご承知のことと思いますが、これからの季節に気を付けたいものの1つであるノロウイルスについてお話ししたいと思います。

ノロウイルスは、嘔気・嘔吐、下痢を主症状とする急性胃腸炎の原因ウイルスのひとつです。ノロウイルスによる急性胃腸炎は年間を通して見られますが、特に10月～4月頃まで流行する傾向があります。成人はもちろんのこと、乳幼児にも流行することがあり、全年齢層における胃腸炎を引き起こす主要原因ウイルスです。ノロウイルスは感染性胃腸炎の原因ウイルスとしてだけでなく、食中毒の原因としても重要です。感染力は非常に強いです。感染経路は、ヒト→ヒト感染・食品を介した食中毒があります。カキの中に存在することもあり、生食は特に食中毒の原因になりやすいです。症状は、嘔気・嘔吐、下痢、腹痛を挙げることができます。半日から2日の潜伏期間を経て、嘔吐が始まり、その後、水溶性下痢が出現し、2日ほどの経過で回復に向かいます。吐き気の症状が強いことが多いです。胃腸炎の症状が消失したのちも、排便中には2～3週間程度ウイルスが排泄されているということもあり、症状が消失してもしばらくの間は、周囲への感染拡大を予防するために、排泄物の処理に注意を払うことも必要です。脱水をいかにさけるかが重要です。水分を少しずつ何度も飲む事です。飲める物であれば、市販のスポーツドリンク・フルーツジュースでも、何でも構いません。理論上望ましいとされている経口補水液が苦手であれば、無理に飲む必要はありません。健康管理・手洗い・消毒に気を付け、特に消毒は塩素消毒・次亜塩素酸ナトリウム、85℃で1分間以上の熱水洗濯などが有効です。高温の乾燥機などを使用すると、殺菌効果は高まります。嘔吐物などの処理は二次感染に十分気を付けます。ノロウイルスは、乾燥すると空中に漂い、口に入って感染することがあります。手洗いは、時間的に余裕あれば、2度洗いをおすすめします。その時、指先・指の間・爪の間・親指の周り・手首・手の甲など汚れの残りやすいところを丁寧に洗いましょう。

簡単に説明しましたが、健康管理・手洗い・消毒は、新型コロナ肺炎・インフルエンザ予防にも効果があります。いつもと違う生活をしていくなかで大変ですが、皆さんと協力しながら、乗り越えていきたいと思います。



お詫び：前号、木洩れ日118号「障害者との出会いの体験(10)」において、誤って過去の文章内容を掲載してしまいました。改めて今号にて正しい内容のものを掲載させて頂きました。お詫び申し上げます。



編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉通り、立秋を迎え徐々に過ごしやすい日々が増えてきました。道端には、真っ赤な曼珠沙華が、きれいに咲き誇っています。先日、自宅の裏庭で採れた栗の実が食卓へ並びました。芸術、食欲、スポーツ、読書・・・と何をするにも良い季節。鈴虫の音を聞きながら、色々な秋を堪能したいと思います。(浅野)

